

The effect of preventive oral care on postoperative infections after head and neck cancer surgery

権藤, 多栄

<https://doi.org/10.15017/4060025>

出版情報 : Kyushu University, 2019, 博士 (看護学), 課程博士

バージョン :

権利関係 : ©2020 Oto-Rhino-Laryngological Society of Japan Inc. Published by Elsevier B.V. All rights reserved.

氏 名：権藤 多栄

論 文 名：The effect of preventive oral care on postoperative infections after head and neck cancer surgery
(頭頸部癌手術後の術後感染に対する予防的口腔ケアの効果)

区 分：甲

論 文 内 容 の 要 旨

【目的】

この研究の目的は、頭頸部癌対象者における術後肺炎および手術部位感染（SSI）の発生率を調査し、口腔ケアと術後感染の関係を明らかにすることである。

【方法】

2016年から2018年に大学病院において頭頸部癌手術を受けた209人の対象者の診療録をもとに、後ろ向きに観察調査した。術後肺炎およびSSIの発生率は、鼻・副鼻腔から喉頭にかけて手術を行った者に限局していたため、これらを分析対象者とし、口腔ケア支援との関連をアセスメントした。術後肺炎とSSIの関連要因に関して単変量分析後、多重ロジスティック回帰分析を行った。感染発生までの期間に関してCox比例ハザードモデルを用いた。本研究は、当施設の倫理審査委員会によって承認された。

【結果】

調査対象者の術後肺炎とSSIの割合は20.5%と23.0%であった。術後肺炎は、手術時間（ $P < 0.01$ ）、出血量（ $P = 0.004$ ）、気管切開術（ $P < 0.01$ ）、再建術（ $P < 0.01$ ）、術前Plaque control record（PCR）値（ $P < 0.01$ ）と有意に関連していた。PCR値は、歯頸部に付着したプラークの割合を基に口腔衛生状態を表す指標である。術後肺炎の発生率は、多重ロジスティック回帰分析において術前口腔ケア介入後のPCR値が50%以上の対象者で有意に高いことが示された（OR = 10.174、95%CI 2.14-48.32、 $P = 0.004$ ）。気管切開術（ $P < 0.01$ ）、再建術（ $P = 0.044$ ）、術前アルブミン値の低下（ $P = 0.019$ ）、および術前ヘモグロビン値の低下（ $P < 0.01$ ）は、SSIと有意に関連していた。

【結論】

口腔ケア実施対象者の術後肺炎の発生率は、PCR高値対象者で高く、術前の口腔ケアへのコンプライアンスを高めることの重要性を示した。